英文學評論

第 XXXVIII 集

結　句　有　情 …… 桜井正一郎
——ワイアットからシェイクスピアへ——

エマスンの『自然論』 …… 尾形敏彦

シェイクスピア劇とローマ史の人物像（II） …… 木村輝平
——プルタルコスを中心に——
『ジュリアス・シーザー』論（その二）

京都大学教養部英語教室

目次

結句有情 ……桜井正一郎…（一）
——ワイアットからシェイクスピアへ——

エマスンの『自然論』……尾形敏彦…（八五）

シェイクスピア劇とローマ史の人物像（Ⅱ）……木村輝平…（1）
——プルタルコスを中心に——

『ジュリアス・シーザー』論（その二）

編集後記

☆　『英文学評論』第三十八集をおとどけする。九月末に原稿が出そろってから、十月末に印刷にまわすまでの、ほぼ一ヵ月のあいだ近年まれな晴天が続き、その常ならぬ秋日和に、「美しい日和は　あと幾日つづくだろう、夏の終り、日のおわり」という詩行を、夏ならぬこの秋にひきよせて、互いに交錯する複雑な意味で、思い出さずにはおれない日々であった。

☆　教室談話会は、五月十二日に、安藤氏の「エセックス大学における応用言語学研究の現状」という談話をめぐり、また、十二月一日には、セル氏の "Communication and Linguistic Meaning: two issues" という談話をめぐって、おこなわれた。

☆　十月一日付で藪下卓郎助教授を神戸大学から当教室に迎えた。なお、本誌第三十五集所収の長谷川年光氏の論文「フェノロサ＝パウンドによる謡曲『錦木』の英訳をめぐって」が京大英文学会の第五回アルビオン賞を受賞した。

（編集委員）

英文学評論　第三十八集

非売品

昭和五十二年十二月二十日　印刷
昭和五十二年十二月二十五日　発行

編集者　京都大学教養部英語教室
代表者　安藤昭一

印刷所　内外印刷株式会社
京都市下京区七条西洞院下

発行所　京都大学教養部英語教室
京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

Volume XXXVIII December 1977

CONTENTS

The Concluding Couplets in the English Sonnets
from Wyatt to Shakespeare ..... *Shôichirô Sakurai*

Emerson's *Nature* ..... *Toshihiko Ogata*

Roman Historic Figures and Shakespeare: A Historical Approach
to Shakespeare's Roman Plays with Special Reference to Plutarch
——Part I On *Julius Caesar* (II) ..... *Teruhira Kimura*

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY